

屈斜路湖畔 100畝の違法伐採

森の再生 30年以上

北海道・阿寒国立公園内の屈斜路湖畔で七月中旬に森林約百畝が違法に伐採されて

いるのが発覚し、地元で環境への影響を懸念する声が上がっている。道釧路支庁は「森林再生には最低でも三十年以上かかる」と話している。

伐採現場の一部は屈斜路湖からわずか数十メートル。林道を少し入ると森が突然消えて、むき出しの地面が広が



る。無残に倒された多くのエゾマツやミズナラが放置されたままになっている。

違法伐採は二〇〇二年から〇六年にかけ横浜市の不

は免れない。本当に愚かな行為だ」と批判した。違法伐採は二〇〇二年から〇六年にかけ横浜市の不動産会社社長による指示で

虚偽の説明で許可

地元手続き徹底へ

えて現地のパトロールを実施した。

環境省は「長い時間をかけてできた湖岸の景観が傷つけられた。湖への土砂流入もあり得る」としている。

行われたとされる。道警は自然公園法違反(無許可伐採)などの疑いで捜査。当初は七月にも関係者を立件する方針だったが、釧路地検が道警に補充捜査を要請したとみられ、地元では「捜査が長期化するのではないか」との見方が出ている。

は「湖畔林には湖に流れ込む水を浄化する重要な役割があり、伐採による悪影響

現場は保全のため規制が厳しい特別地域。大部分を



が森林を管理している」と虚偽の説明をして伐採許可を得ていた。

虚偽の説明で伐採を許可

東京の不動産会社が所有している。伐採には最初に環境省の許可が必要だが横浜市の会社社長は申請しなかった。弟子屈町には「自分

が森を管理している」と虚偽の説明をして伐採許可を得ていた。

民間の信用調査機関などによると、横浜市の会社社長は一九七五年から屈斜路湖周辺のリゾートや別荘地の開発に携わっていた。九〇年代以降、バブル崩壊による不動産不況で巨額の負債を抱えたため、伐採した木材を売って利益を早期発見に努めるとい



阿寒国立公園内で違法伐採された森林＝北海道弟子屈町